

# 幼児のための 環境とデザイン

林 健 造

## 環 境 と 保 育

はじめに

幼児のための環境ということとは、大上段にふりかぶった環境論をいうのではない。「環境は人をつくるが、人はまた環境をつくる。」ということばがあるが、ここでいう環境は、むしろ後者のつくる環境、すなわち心的な部面ではなく、主に物的な環境構成といった部面について、ごく身近な問題の設計・計画をふくめたデザインの

な角度から述べてみようということに過ぎない。

### 一、教師の役目

子どもの絵画製作を指導する教師の最も大切な仕事は、絵の描きかたや、製作の技法を教えることではなくて、子どもが、自由に、のびのびと、自分の創造力を発揮できるように励ましてやることと、もう一つは環境を整えてやることである。ということは、もう今日では進歩的な教師の誰もがなっ得し、おこなっていることであろう。

子どもたちを励ますことはさておき、環境を整えてやるということとは、「言うは易く、おこなうは難し」のことは通り、いろいろなしごとを追われている教師にとってはなかなかの努力を必要とする。それに、時と金も必要である。しかし、私たちはそのことを言訳にしてはいけない。子どもたちの「幸しあわせ」のことに真剣に考えていくならば、ごく平凡なことばではあるが、「やれば出来る」ものなのである。経済のことも、金かねをなるべくかけない、安く作る方法もある。子どもたちとの協力で、その辺のデパートなどではちょっと売っていないすばらしいものも作れるのである。

最も大事なことは、子どもたちが何を欲求しているかとか、子どもたちにもこのような刺戟を与えればもっと伸びようとか、子どもたちをよく見つけ、よく知っていることである。このような動機から

わきでる教師のアイデア（着想）がごく自然である。もちろん、それに教師自体のアイデアだけのこともあり、子どもたちからヒントを得ることもある。

「先生、私たちのお部屋にタナバタさんかざろうよ。」  
「先生、私たちが、室の中のタナバタ飾りの構成を考えたり、というようにことから、また、」

「ボクたちのつくったおさかな、泳がせる海がほしいな。」  
というようにこたえて、みんなの子どもの作品をひっかける針金や、金あみのアイデアとなるようなことは、それである。

## 二、環境構成の二つの面

造形的な環境構成とでもいう面には大きく分けて次のような二つの面が考えられる。一つは、園の設計・施設といった大きなもの、例えば建築プランからしてそうである。どこに、どんな室をつくるか、運動場、池、砂場、保育室の壁、机、腰掛、黒板、手洗い、衣帽室や傘立てなどといった面であり、もう一つは、そんなに大きなものでなく、いわゆるふんいきづくりのための季節ごとの飾りのことや、毎日の保育指導のために使う道具や設備のような直接的なもの、例えばみんなで使うための絵の具箱をどうするかというような面である。

前者の大きな面も、そんな大きなものは仕方がないなどと考えず

に、一つ自分が設計者になったつもりで考えてみることも楽しいこととであり、えてしてそのような夢からすばらしいアイデアも浮かび得るものである。案外、実際には子どもはおとなの小さいものという考えから、何でも小さいものであればいいという考えかたがあるのではなからうか。

デザインは、ものの働き（機能）と美の両面を満足させるように計画されるものであるが、以上のようないろいろな設備も同様で、子どもたちの安全教育や、衛生の面や、教育的能率の面や、加えて美的な面と総合的に考えられなければならない。

しかしこのようなことを書くことはこの誌面では無理である。したがって、二、三の話題を提き、よめることにとどめよう。

### A、色彩調節

近頃は、病院、工場、学校などで、さかんに色彩調節ということが問題化している。私たちの生活と色彩は非常に密接な関係をもっていて、色の加減で寒々とした感じや暖かい感じしたり、沈うつになったりすることがある。したがって生活環境をよくするため、色彩のもっている働きを利用し、その効果を上げることが色彩調節、普通カラ・コンなどと呼ばれている。

特別に配慮されている園や学校をのぞけば、多くの場合教室や保育室は憂鬱である。神経質ならいらした子、意欲のない、集中性

のない子、欠席がちの子、喧騒とけがなどは、色を調節した環境が与えられることによって相当救われることであろう。

豊島の学芸大付属小学校では校内の壁や廊下の色彩調節をした結果、子どもたちは落つき、綺麗好きになり、廊下をかけることはなくなり、騒がしさがへったという報告を発表していることも、このことを裏付けている。

色彩専門家は次のようなことをいっているが、参考に挙げておこう。

○白と黒のコントラスト(対照)は眼を極端に疲労させる。白い紙から黒板に眼をうつすことをしばしば繰返すと眼を害する。また白い紙から白壁へ眼を移すときはまばゆさを感じ、苦痛はへらない。特殊な明るい中間色だけが眼を心地よく休ませる。(黒板や白い壁が眼を疲れさせるために、緑系統の黒板? を使うとか、壁も中間色でぬる、などが考えられる。)

学習に専念する室はどちらかという冷たい中間色がよく、活動を刺戟するような室は温い色、赤系統やオレンジの中間色がよい。

北側からだけ採光する室は青はよくない。是非青にするためには黄を加え、緑にする。反対に太陽の光の直接入る室は、赤に青を加えた紫系統の明るい中間色がよいということになる。

## B、子どもの家

この頃、幼稚園などで子どもの家(室)を作っているところが多い。これは、子どもの寸法に合わせたおとなの家の縮尺建築をし、家具、調度も縮尺ものである。みるからにかわいいが、おとなの生活のまねではなく、子ども自体の生活をうまくいかした建築設計があると思われるが、この期待はまだかなえられない。

ただ金沢大学の家庭科の実験の為に作られた保育室のタタミが全部半畳にきつてあり、汚しや破損の多い子ども室のタタミがえが簡単にできるよう、また一人でもあげ易いように工夫されていることと、掃除の時にゴミがすぐはき出せるように、はき出し口が大きく切つてある室をみたことがあるが、これなどは子どもの室のグット・デザインといえよう。

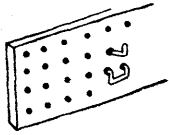
### 三、環境づくり

#### 設備のアイデア

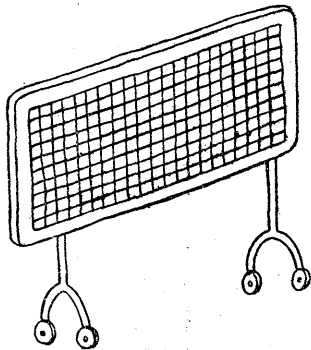
保育活動を活潑に、能率的にするために、教師はいろいろと施設や備品について工夫することが大切である。

ここにあげる例は、すでにどこかの園では、前から使われ、あるいはもっとよいものもあるかもしれないが大方の参考のために掲げたものである。

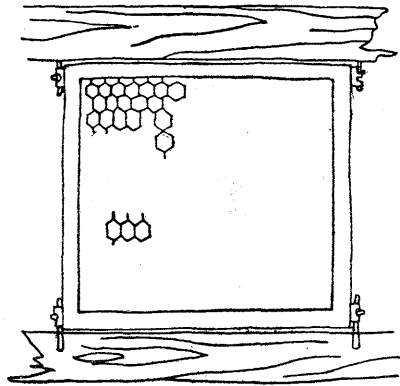
パンチングボードでもよい



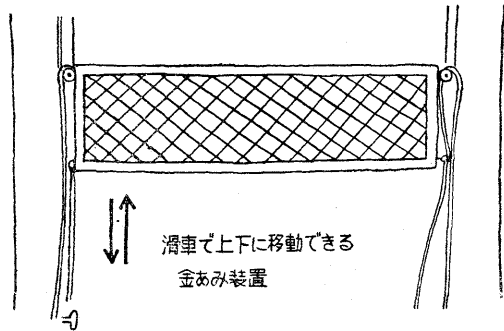
お茶大附属幼稚園にある金あみの掲示板



とりはずしのできる柱向にとりつけた金あみ装置



①



滑車で上下に移動できる  
金あみ装置

### a、金あみと掲示

(ひっかける工夫)

金あみを通すものがきれいにみえるし、何でもひっかけることができ、とても便利なのである。

同様に最近、お勝手などにつかわれているパンチングボード(たくさん穴のあいている板)も便利で、しかもいろいろと着色されたものが売っているので、環境のアクセントとしても美しい。

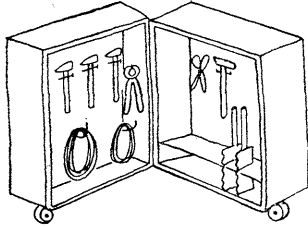
(図①)

### b、カーテンレールと戸車(動く工夫)

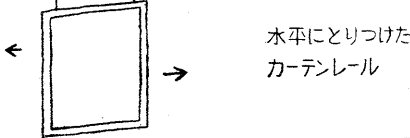
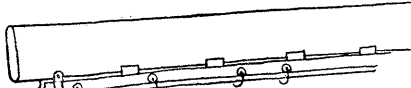
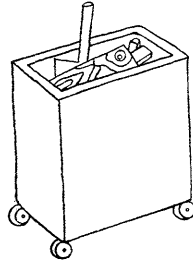
教師にとって掲示物が移動できるということは便利である。子どもにとっても動くということは

## 戸車とカーテンレール

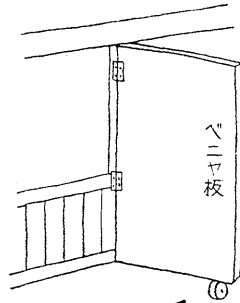
ふたのあく移動式道具箱



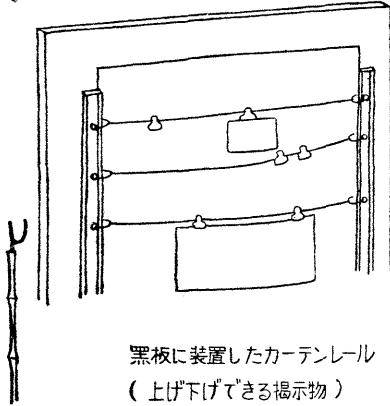
戸車のついた移動式材料箱



水平にとりつけた  
カーテンレール



室のうしろにとりつけたらごく  
掲示板



黒板に装置したカーテンレール  
(上げ下げできる掲示物)

②

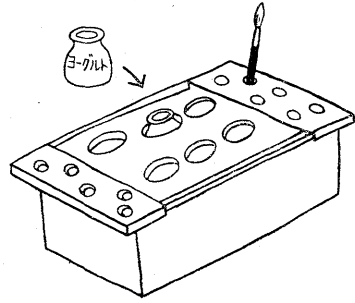
すばらしく楽しい。カーテンレールや戸車(ゴム)のついたもの、輪が自由に動くもの、大小などいろいろの種類がある。(図②)

**c、みんなで使う道具**

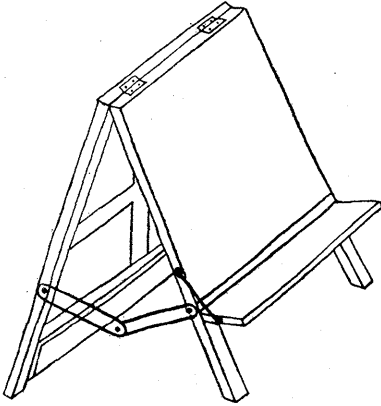
両面から使えるダブル画架もよく使われているが、六尺ものを使うために片づけるときに困ることがある。これは三尺巾のものにして、分解できるように考えると便利である。(図③)

環境づくりには、このような設備ではなく、子どもたちの手によるおかげりというようなものがある。みんなで新聞紙を

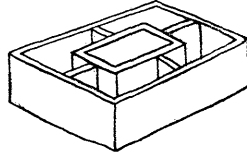
共同の絵の具箱



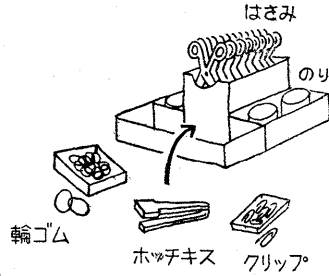
分解できるように工夫した  
ダブル画架



はりえのための材料の分類箱



③



つなぎあわせて、大きな鯉のぼりを作って、壁にはって、五月のよるこびを味わうとか、海のおさかなを作って、みんなでもちより、金あみにさげて、夏の季節をたのしむとかということほそれである。このことは、誌面を改めて述べることにしよう。

子どもの創造力をかりたて、ふるいおこすための環境づくりは、教師の子どもへの愛情からほとばしりですばらしいアイデアによってうみだされ、いかされるものであるといえよう。